

## 特集：香港の鶏卵事情

8月16日～21日に鶏卵輸出準備分科会の輸出先国調査検討委員会による「香港における鶏卵流通」調査が行われました。今回の調査は平成27年度畜産物輸出特別支援事業に基づくものであり、「鶏卵の輸出を促進するため、輸出先国における市場・流通等の調査等を行い、課題の抽出・分析等を行う。」ことを目的に行われました。鶏卵輸出準備分科会会員である以下の方々により行われましたので、簡単なポイントのみ報告致します。詳細につきましては、後日報告書が作成されます。

### ① 参加者（敬称略）

| No. | 氏名     | 所属先                    |
|-----|--------|------------------------|
| 1   | 都丸 高志  | (株) トマル 代表取締役 「調査団長」   |
| 2   | 石澤 直士  | (株) ゼンケイ 代表取締役         |
| 3   | 二階堂 徳光 | (株) 霧島エッグ 常務取締役        |
| 4   | 開発 賢   | 丸紅エッグ (株) 次長           |
| 5   | 佐藤 豊   | 日本養鶏農業協同組合連合会 (日鶏連) 部長 |
| 6   | 五藤 義隆  | 中部飼料 (株) 鶏卵事業部長        |
| 7   | 島田 博   | 一般社団法人 日本養鶏協会 顧問 「事務局」 |

### ② 主要行動

- 8月16日（日）香港空港到着後ホテルへ。 紅磡地区スーパー視察
- 8月17日（月）香港フードエクスポ見学、JETRO/香港訪問、香港BSとの会合
- 8月18日（火）食物及衛生局訪問、スーパー等視察（香港島/九龍）
- 8月19日（水）港湾施設見学（三井倉庫）、検討会議
- 8月20日（木）味の珍味（青衣）、GoGo Foods(柴湾)訪問
- 8月21日（金）検討会議、香港空港⇒帰国

### ③ 現状の鶏卵輸出について

現在鶏卵輸出が可能なのは、輸出先国との2国間条件締結が前提となっているため、**香港とシンガポールのみ**となっている。 **香港向け**には輸出施設登録として既に**90施設**が登録され、昨年度実績は約1,500トン輸出され、今年度1-5月実績でも前年同期比140%程度の伸びとなっている。 **シンガポール向け**の登

録施設は 5 か所のみで、昨年実績も年間で 2 トンにも達しておらず、現状の鶏卵輸出はほぼ香港向けが殆どである。香港向けには冷蔵コンテナの船便で運ばれている。

## ④ 香港の現状

- ・人口（2014 年）は 726 万人で年々増加傾向にある。これは出生率の改善と中国本土からの移民の増加による。ちなみにこの人口は埼玉県並となる。
- ・人口密度（2014 年）は 6,544 人（k m<sup>2</sup>あたり）であり東京都（2015 年）の 6,106 人よりはるかに高い。
- ・香港人の平均寿命は世界トップ水準（男性：81.2 歳、女性：86.7 歳）で健康志向が高い。（日本人の平均寿命/2015 年 男性：80.50 歳、女性：86.83 歳）また少子化である一方、30-40 代の労働人口層が比較的厚い。
- ・女性の就労比率は 55.4% と高い。（日本/2012 年 48.2%）
- ・一部の酒類以外は関税が無い。それ故「通関リスク」が無い国となっており、この機能を使った加工貿易としての基地的役割もある。
- ・一人当たり GDP（2014 年）US \$ 39,871 で世界 24 位、日本は US \$ 36,331 で世界 27 位。
- ・GDP 構成比では卸売・小売・輸出入で約 25%、金融・保険で 16%、行政・社会サービス業で 17% と製造・生産に関係しない部門の比重が高い。また昨今では不動産・ビジネスサービス業と不動産所有が合計で 22% も占めている。
- ・昨今では不動産価格の高騰が続いている。これは中国人による買占め現象と思われる。一方人件費も上昇しているが、それ以上の家賃高騰となっており、若者の生活苦・将来への不安が増加している。その爆発が昨年の中（セントラル地区占拠）運動であった。

## ⑤ ポイント

### （1）JETRO/香港

- ・香港市場の魅力としては「自由貿易制度」「アジアのハブ」「税制」「中国へのゲートウェイ」
- ・人口増と来港旅行客数の増により香港の食品輸入額は過去 10 年で約 3.2 倍に増加している。
- ・日本から香港への農林水産物/食品の輸出額は国別ではトップで 1,343 億円、水産物が 51.4%、農産物が 48.4%、林産物が 0.3% という構成
- ・香港人の外食依存度が高く、外食産業の売上高も過去 8 年で 1.4 倍に増加しており、この傾向は続きそうである。

- ・日本食は香港の食文化に定着して、家庭にも浸透しつつある。数多くの日本の外食業、食品メーカーが進出している。
- ・業態ではラーメン店のオープンが相次いでおり、競争も激化している。
- ・中食用のテイクアウト店舗数は過去 10 年で倍増。
- ・日本産食品を取り扱う香港系スーパーも拡大傾向。
- ・香港人の情報端末所有率が高く、フェイスブック等の SNS を通じての情報浸透が早い。グルメ批評等のブロガーの影響力も無視できない。
- ・外食での宴会では中華料理がメインであり、日本料理が宴会食となされる様な工夫が必要。
- ・「日本のたまご」の良さとしては味と安全性/信頼性。火鍋で卵を溶いてつける様な提案をしている店もあるが、これらは日本の卵である。
- ・「安心・安全な日本のたまご」として香港人の気持ちをつかむマーケティングが必要だ。

## (2) 香港 BS (調査会社) よりの報告

- ・家禽類の卵として輸入通関統計に報告されているが、60g 換算して  
2012 年：132 千トン、2013 年：135 千トン、2014 年：137 千トンと増加傾向にある。家禽類 1 個当たりの通関単価は全体平均が HK\$0.7 程度に対して、日本産は HK\$1.5 程度と約 2 倍となっている。日本の卵はスーパー店着で 1 個当たり HK\$ 1.8~2.0 で店頭売価では HK\$2.2~3.0 程度。

### 【2014 年輸入統計：鳥卵】

|       | 国名    | 輸入個数          | 輸入額           | 単価 (個)   | 全体に占める割合 |       | 輸入量 (トン) |
|-------|-------|---------------|---------------|----------|----------|-------|----------|
|       |       |               |               |          | 数量ベース    | 単価ベース | 60g 換算   |
| Total |       | 2,282,963,000 | 1,605,662,000 | HK\$0.70 |          |       | 136,978  |
| 1     | 中国    | 1,216,535,000 | 787,380,000   | HK\$0.65 | 53.3%    | 49.0% | 72,992   |
| 2     | アメリカ  | 531,512,000   | 373,294,000   | HK\$0.70 | 23.3%    | 23.2% | 31,891   |
| 3     | タイ    | 238,133,000   | 189,423,000   | HK\$0.80 | 10.4%    | 11.8% | 14,288   |
| 4     | マレーシア | 152,796,000   | 113,221,000   | HK\$0.74 | 6.7%     | 7.1%  | 9,168    |
| 5     | ウクライナ | 43,839,000    | 29,889,000    | HK\$0.68 | 1.9%     | 1.9%  | 2,630    |
| 6     | 日本    | 22,472,000    | 33,678,000    | HK\$1.50 | 1.0%     | 2.1%  | 1,348    |

・日本の鶏卵は香港の食品流通業者（サプライヤー）の提携先である日本の専門商社から野菜/魚など一括して購入されている。鶏卵生産者は既に香港当局に対して輸出施設登録を認められており、輸出許可証は登録施設名で取得し、提携先は生産者から博多港渡しなどで、日本円で購入している。為替リスクはサプライヤーが負担している。

### （3）香港政府食物環境衛生署との会合

・本邦からの輸入時に関する手続き

＜輸入申請と衛生証明書＞

まずは、輸入前に輸入申請（製品名・種類・輸入日・コンテナ番号等）を行って頂く必要がある。また、輸入の際には公的機関発行の「衛生証明書」の提出が必要となる。「衛生証明書」には、①AI（鳥インフルエンザ）の発生地域でないこと。②食用であること。③添加物が含まれていないこと。の記載が必要である。

・香港では、2015年12月5日以降新しい法制が施行される予定であり、鶏卵についても条文中で明確に管理を行うことになるとのこと。その骨子はトレーサビリティの確立のためであり、今後は輸入品の原産地でのトレースができるということが輸入の条件になる、と思われる。

### （4）スーパー視察

香港の地場スーパーは2大チェーンが拮抗している。Dairy Farm Group と A.S.Watsons であり、Dairy は恵康 Wellcome を Watsons は百佳 PARKnSHOP を主体にそれぞれ高級業態も展開している。Dairy Farm Group はシンガポール、マレーシアでは Cold Storage, Giant など展開している東南アジア最大の小売業といえる。同社の大半はジャーディ・マセソン社が握っている。今回の調査でも両社店舗を中心に訪問した。通常卵の国別の1個当たり販売価格は以下であった。（1香港ドル=16円換算）

|    |         |
|----|---------|
| 米国 | 28円～37円 |
| タイ | 25円～43円 |
| 中国 | 16円～43円 |
| 日本 | 35円～51円 |

特殊卵としてはフリーレンジ卵、有機卵やビタミン強化卵などが高級業態店で販売されており、1個100円以上も多い。特殊卵（特に非ケージ卵）の産地国

は多様に分かれており、米国、ニュージーランド、デンマーク、イタリア、オランダ、シンガポール、日本、中国など多岐に渡る。

## (5) 市場視察

香港政府 FEHD（食品・環境衛生局）が管理している公設市場が香港の各地にあり、2014 年現在で 76 ヶ所と言われている。それ以外にも市場街的なものもあり、精肉、野菜、鮮魚の専門店と食料品店が軒を連ねる地域がある。これらの食料品店ではモールドトレイの卵が店の軒先に置かれており、米国産 3 個で 5 ドルなどと表示され販売されていた。当然温度管理などはなく、極めて暑い太陽を浴びている卵も多く販売されていた。

## (6) 港湾施設見学

・九龍半島から空港のあるランタン島に入る青衣地区に、コンテナヤードや倉庫群が密集している。青衣地区にある倉庫会社を訪問し、倉庫と作業等を見学するとともに、コンテナヤード運営会社を訪問し、巨大なヤードを見学した。香港はフリーポートというメリットにより、通関リスクが無いことが最大の武器となって発展してきたが、現在は世界第 4 位のコンテナ取扱港となっている。  
・日本からのコンテナ船は博多⇒釜山⇒香港となることが多いので、大体 7 日間かかる。大阪/東京の場合は香港に直接来港するので、約 5 日間。

## (7) 流通関係者（当地食品問屋）よりの聞取り

・日本よりの食品輸入は増加しており、これは為替（円安）の影響が大きいと思われるが、日本から近距離であることや食品への規制が緩いことも要因となっている。  
・日本産鶏卵も増えている。日本産鶏卵の消費動向として、個人消費は少なく、業務用が多い。日本産が好まれているのは鮮度がよいこと。日本からは約 1 週間程度で入ってくるが、米国産は約 40 日要する。この差は大きい。また、競合先としてはタイ・マレーシア産があり、同国の製品についても安全性を謳い、価格もよい。  
・日本産のアピールポイントは、①おいしさ・新鮮、②カラーファン。やはり、②は消費者の印象に残る。日本産鶏卵全体のマーケットを拡大していくことが必要であり、現状の日本の業者間のシェア争いでは意味がない。  
・プロモーションは個別でなく、「日本のたまご」として進めるべきだ。一企業ではできないことを、国をあげて PR している印象を与えるべきだ。

## 【香港の鶏卵売場】



日系スーパーの卵売場。パック卵 18 SKU の内訳：タイ 9、日本 6、米国 2、中国 1。上段に皮蛋、うずらを販売



高級スーパーの卵売場。パック卵 16 SKU の内訳：米国 7（うち有機 4）、日本 2、ニュージーランド 2（有機 2）、中国 2、タイ 2、英国 1（有機 1）



街角の商店街の食品店店頭での鶏卵売場。中国産と思われる赤玉、白玉とも 3 個 5 香港ドル（1 個 2 7 円程度）

### （印象、まとめ）

- ・香港の生活物価は安くないという印象を持った。卵の価格も安くない。
- ・為替レートによる貿易増減では一時的なものとなるので、ある程度の円高にも耐えられる生産コスト低下努力を我が業界も必至である。将来的には輸出の増加⇒鶏卵生産の増加⇒生産コストダウン という方向性を定めて、腰を据えて輸出に取り組むべきである。
- ・特に業務用拡大に力点を置いた試行的輸出案を策定して、11 月頃までに香港でプロモーションを行いたい。

## 【農政関係】

### ・ TPP（環太平洋経済連携協定）関係

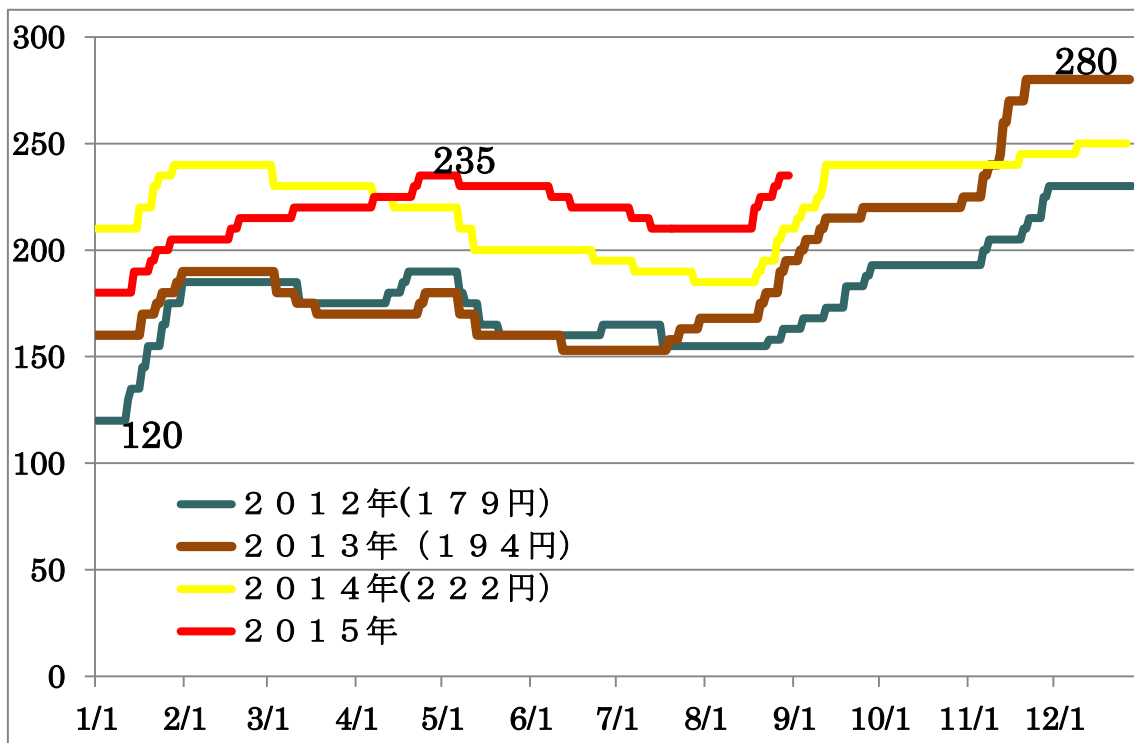
7月25日からハワイで首席交渉官会合を開いたのに続き、28日から閣僚会合が開かれましたが、大方の見方として合意必至となっていたのが、ニュージーランドの反対で合意に至らず、今後持ち越されました。

## 【相場動向】 過去 10 年間の 7 月相場

|       | 平均値 | 高値  | 安値  |
|-------|-----|-----|-----|
| 平成18年 | 154 | 167 | 146 |
| 平成19年 | 145 | 145 | 145 |
| 平成20年 | 193 | 195 | 185 |
| 平成21年 | 154 | 160 | 150 |
| 平成22年 | 177 | 190 | 160 |
| 平成23年 | 170 | 185 | 165 |
| 平成24年 | 160 | 165 | 155 |
| 平成25年 | 157 | 168 | 153 |
| 平成26年 | 190 | 195 | 185 |
| 平成27年 | 213 | 220 | 210 |
| 平均値   | 171 | 179 | 165 |

平成 27 年 7 月の鶏卵相場（東京全農 M サイズ）は 213 円となりました。これは昨年の 190 円よりは 23 円高くなりましたが、先月の平均値 223 円よりは 10 円安くなりました。

## 【鶏卵相場推移 2012 年～2015 年 暦年度 東京全農 M サイズ 円/Kg】



## 【鶏卵関係主要計数】6月までの1年間計数推移

|       | 雛餌付羽数(出荷) |        | 配合飼料出荷量 |        | 家計消費量   |        | 鶏卵相場  |     |
|-------|-----------|--------|---------|--------|---------|--------|-------|-----|
|       | 数量(千羽)    | 前年比    | 数量(千トン) | 前年比    | 数量(グラム) | 前年比    | 東京全農M |     |
| 平成27年 |           |        |         |        |         |        | 本年    | 前年  |
| 7月    | 8,866     | 116.8% | 450     | 104.4% | 809     | 100.6% | 190   | 160 |
| 8月    | 7,280     | 102.2% | 426     | 100.1% | 801     | 102.4% | 192   | 175 |
| 9月    | 8,831     | 105.5% | 451     | 104.5% | 826     | 107.2% | 231   | 211 |
| 10月   | 8,497     | 109.9% | 488     | 105.2% | 819     | 96.4%  | 240   | 220 |
| 11月   | 8,136     | 98.7%  | 454     | 97.8%  | 843     | 101.2% | 248   | 259 |
| 12月   | 8,803     | 108.6% | 533     | 105.5% | 880     | 102.8% | 222   | 280 |
| 27年1月 | 8,506     | 109.5% | 462     | 99.9%  | 765     | 96.4%  | 192   | 224 |
| 2月    | 8,273     | 102.6% | 449     | 101.4% | 819     | 101.9% | 209   | 240 |
| 3月    | 9,263     | 107.3% | 480     | 97.3%  | 851     | 103.6% | 219   | 230 |
| 4月    | 8,411     | 95.9%  | 479     | 103.5% | 838     | 107.0% | 227   | 223 |
| 5月    | 8,989     | 101.6% | 451     | 94.9%  | 856     | 100.0% | 230   | 204 |
| 6月    | 9,084     | 102.8% | 454     | 101.6% | 803     | 94.5%  | 223   | 199 |
| 1年間小計 | 102,939   | 104.0% | 5,578   | 101.3% | 9,910   | 101.1% | 219   | 219 |

先月同様、6月までの一年間での配合飼料出荷量/一人当たり家計消費量が同じ様な比率で前年対比伸びており、注目に値します。 それに対して雛餌付羽数の年間累計がまだ大きなものとなっています。

## 【協会活動報告】 [\(下線色付き部分はホームページに連結\)](#)

### ①各種事業についての報告

#### [\(1\) 鶏卵生産者経営安定対策事業](#)

価格差補填事業の事業参加者との契約数量 (月当たり/トン)

|        |         |
|--------|---------|
| 平成25年度 | 164,822 |
| 平成26年度 | 160,792 |
| 平成27年度 | 161,936 |

・7月の標準取引価格 208.23 円/Kg(補填なし)

#### (2) 国産鶏卵に関する普及啓発事業

・いいたまごの日を「オムライスの日」と位置づけ、[「オムライス リーフレット」](#)を全国的に卵売り場に置く活動を開始し、会員よりの配布希望数を集計しておりますが、中間段階で既に当初印刷予定数の10万部を越えました。 今後は合計配布数が20万部になるべく、広く配布活動を行っていきます。 また「いいたまごの日」である11月5日には全国で「たまごの日」啓発活動を行っている団体等を招待して、情報交換会を行う予定です。



・「いいたまごの日」を盛り上げるためのキャンペーンの一環として、マイナビウーマンのサイトで「[お料理ベタ女子が挑戦 プロが教える絶品卵レシピ](#)」という記事を掲載しています。

<http://woman.mynavi.jp/ad/youkei/vol1.html>

・また同じサイトで「[いいたまごの日](#) キャラクターネーミング募集!」というバナーを掲載しています。8月末での締切ですが、かなり多くの方々よりの応募が期待されます。

[https://mypo.mynavi.jp/question/cuebit/mw-150730youkei\\_name/mw-150730youkei\\_name.cgi?re\\_adpcnt=3wB\\_2Uj3](https://mypo.mynavi.jp/question/cuebit/mw-150730youkei_name/mw-150730youkei_name.cgi?re_adpcnt=3wB_2Uj3)

### (3) 畜産物輸出特別支援事業

(鶏卵輸出準備分科会 輸出先国調査検討委員会)

8月16日～21日にかけて輸出関係調査団を香港に派遣しました。(本号の特集参照) 今後は10-11月に施行的輸出を行うべく、9月1日に第2回目の輸出先国調査検討委員会を開催する予定です。

(畜産物輸出戦略検討会)

8月27日に農林水産省にて畜産物の輸出準備分科会と輸出に関係している業者の方々を参集して、将来の輸出戦略を作成するための会議が行われ、当方よりは鶏卵の輸出目標等の発表を行いました。

### (4) 平成27年度全国優良畜産経営管理技術発表会の推薦事業

中央畜産会主催の上記事業に当協会が推薦した会員様が2年連続で農林水産大臣賞を獲得しています。本年度の推薦候補の農場様の推薦書と推薦調書を作成し、中央畜産会に提出しました。9月には推薦農場を審査委員(大学の先生方)が訪問しその結果が良ければ、11月20日に東京の日比谷図書館にて開催される発表会で候補農場が発表を行います。

### ②正副会長会議

8月26日に本年度第2回目の正副会長会議が開催されました。今後の進め方などについて話し合われました。

## ③審議委員会

8月26日に本年度第2回目の審議委員会が開催されました。委員が一部改選されたため、従来の経緯や今後の進め方などについての確認が行われました。

## ④中央鶏卵取引協議会

・小売パック卵の規格表示及び品質の検査

8月7日に中央鶏卵規格取引協議会による小売パック卵に対する表示と品質の検査が行われました。

### ・鶏卵規格取引研修会

以下の予定で鶏卵規格重量責任者に対する研修会が開催されます。GPセンターや鶏卵取引に関係する方々の、積極的なご参加をお願い致します。

10月30日(金) 京都府農協会館、11月13日(金) 馬事畜産会館  
(関連ホームページ)

<http://www.jpa.or.jp/news/item/2015/0731/index.html>

## ⑥ 互助金認定委員会

8月27日に27年1月にAI被害を受けた岡山県の生産者に対する検討会が行われました。

## ⑦ 今後の予定

- 9月 1日(水) 鶏卵輸出準備分科会 第2回輸出先国別調査検討委員会
- 15日(火) 正副会長会議
- 30日(水) 正副会長会議、理事会
- 10月 30日(金) 鶏卵規格取引研修会(京都/京都府農協会館)
- 11月 5日(水) いいたまごの日(情報交換会、記念イベント)
- 12日(木) 正副会長会議、理事会
- 13日(金) 鶏卵規格取引研修会(東京/馬事畜産会館)
- 26日(木) 第3回審議委員会

【日鶏協ニュース】 発行者：一般社団法人 [日本養鶏協会](http://www.jpa.or.jp)

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号馬事畜産会館内 (5階)

TEL：(03)3297-5515 FAX：(03)3297-5519 発行日 2015年8月31日

編集・発行責任者：島田博([fuwatama@jpa.or.jp](mailto:fuwatama@jpa.or.jp))